2017 大会プレイバック

＜マスターズ甲子園2017・第14回大会＞

2016 － 2017シリーズ第２幕

第14回大会では、各地方予選大会で代表権を得た、鳴門（徳島県代表）、白石工（宮城県代表）、岩手県選抜（岩手県代表）、桐蔭学園（神奈川県代表）、浦添商（沖縄県代表）、鹿児島商（鹿児島県代表）、境（鳥取県代表）、浪速（大阪府代表）、愛媛県選抜（愛媛県代表）、高田商（奈良県代表）、嘉穂（福岡県代表）、岐阜県選抜（岐阜県代表）、木本（三重県代表）、高崎商（群馬県代表）、熊本商（熊本県代表）、春日部東（埼玉県代表）の計16チームが出場しました。このうち、嘉穂は現役高校野球部も甲子園非出場であり、高校創設以来、悲願の甲子園初出場となりました。

これらの出場16チームに計756人の選手がベンチ登録、このうち高校時代での甲子園非出場者は659人でした。最年少は18歳、最高齢は、熊本商業高校OBの鍵山征士氏（79）が出場しました。また、桐蔭学園高校からは、小桧山雅仁氏（元横浜ベイスターズ投手）が出場し、チーム発足時からOB会や事務局のまとめ役として活躍しながら、OBチームとして念願のマスターズ甲子園初出場が決定した神奈川県予選大会決勝の二日後に他界した小島昇氏の想いを胸に、選手宣誓を務めました。

甲子園キャッチボールには、38都道府県より計272ペアが登録。元高校硬式野球部関係者（部員、監督、部長、コーチ、マネージャー）であれば、チームメート同士や他校の元選手、兄弟等で参加できる「球友編」に43ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば親子で出場できる「親子編」に159ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば夫婦でキャッチボールできる「夫婦編」に63カップル、また、片方がマスターズ甲子園ボランティア経験者であれば参加できる「ボランティア編」に7ペアが参加しました。

式典司会は、今年も高校野球選手権大会の初代学生司会である山内佑利子氏が担当。夏の大会の開会式で入場行進のプラカード係を担当している市立西宮高校のOGが、当時プラカードを持てなかった同校のOGと共にプラカード先導役を務めました。その他、かつて甲子園に憧れた審判員を含む、計640人のスタッフ・ボランティアが、それぞれの想いを胸に、第14回大会の全プログラムを支えました。

マスターズ甲子園 2017 試合結果

第１日目（11 月 11 日）

第１試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
白　石　工（宮城県代表）	0	0	1	0	0	2	0	1x	4
鳴　　門（徳島県代表）	1	0	2	0	2	4	1		10

第２試合

	1	2	3	4	5	6	7		計
桐 蔭 学 園（神奈川県代表）	1	2	1	4	7	0	1		16
岩手県選抜（岩手県代表）	0	0	0	0	2	0	0x		2

第３試合

	1	2	3	4	5	6	7		計
浦　添　商（沖縄県代表）	0	0	0	0	4	4	0		8
鹿 児 島 商（鹿児島県代表）	0	0	0	0	0	1	x		1

第４試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
境　　（鳥取県代表）	2	0	0	1	0	0	0	0x	3
浪　　速（大阪府代表）	1	0	0	0	0	0	2		3

第２日目（11 月 12 日）

第１試合

	1	2	3	4	5	6	7	計
高　田　商（奈良県代表）	0	0	2	1	0	4	7	14
愛媛県選抜（愛媛県代表）	1	1	1	4	0	0	0	7

第２試合

	1	2	3	4	5	6	7	計
嘉　　穂（福岡県代表）	1	2	1	3	0	2	0	9
岐阜県選抜（岐阜県代表）	3	5	0	0	0	0	0x	8

第３試合

	1	2	3	4	5	6	7	計
木　　本（三重県代表）	0	0	6	1	1	0	3	11
高　崎　商（群馬県代表）	0	2	0	0	0	1	0	3

第４試合

	1	2	3	4	5	6	7	計
春 日 部 東（埼玉県代表）	1	2	0	5	3	1	1	13
熊　本　商（熊本県代表）	0	3	0	4	0	1		8

X はイニングの途中で試合が終了したことを表す